

式 辞

本日ここに令和3年度、山形城北高等学校の入学式を挙げるに当たり、保護者の皆様とともに新入生の皆さんを祝福できますこと、私ども教職員にとりまして、この上ない喜びであります。

ただ今、入学を許可いたしました皆さん、入学おめでとう。

皆さんはこの一年、新型コロナウイルス感染が広がる中、いつもとは異なる対応を求められながら、我慢を強いられることの連続であったと思います。それだけに、本日から始まる高校生活に大きな期待と希望を抱いていることでしょう。

さて、本校は、大正15年、今から95年前、山形裁縫女学校の設立に始まり、その後、幾度か校名を変え、昭和23年、学制改革により山形城北女子高等学校となりました。そして、平成14年、山形城北高等学校と校名を変更、男女共学としました。施設については、昭和14年、現在地に校舎を移転し、近年は逐次、耐震補強工事を重ね、新5号館、新1号館を新築、今年2月には高速通信環境の整備を終えたところです。まさに、時代の変化に合わせ、姿・形を変えながら、変貌を遂げてきました。

また、本校は東北文教大学及び短期大学部、そして大学付属幼稚園とともに、県内唯一の総合学園である学校法人富澤学園として運営されており、学園内の連携・協力をより一層密にしながら、学園としての総合力がさらに発揮されるよう努めています。そして、その土台となるのが「敬愛信」という建学の精神です。

創設者である富澤カネは、『思い出のままに』と題する回顧録の中で、「富澤学園のバックボーンを何にするか真剣になって考えたのは昭和15年頃。どんなに時流が変わっても、人間として生きるため、これだけは変わるまい、と突き詰めて考え生まれたのが「敬愛信」である。人を敬い、人を愛し、人を信じる。またそれは、人に敬われ、愛され、信じられる人間になってほしいという願いが込められている。」と述べています。

さて、霞城公園の桜は観測史上最も早い開花とのことで、皆さんの入学を祝福するように今は満開。そのソメイヨシノですが、江戸時代末期にオオシマザクラとエドヒガンという2種類の桜を人工的に交配させて誕生しました。そして、その美しさが知れ渡り、接ぎ木によって全国あちこちに植えられました。接ぎ木とは同じ遺伝子を持つ個体を複製すること、つまりクローンを作ることに他なりません。今では全国に100万本以上あると言われるソメイヨシノは、一本の木からクローン繁殖でどんどん増えたものなのです。同じ遺伝子であるために、地域や気象環境がそろえば、一斉に花が咲き、一斉に散るわけです。

しかし、クローンには大きな問題点があります。隣り合うソメイヨシノは、固体は異なっているにもかかわらずクローンであるため、双方から伸びた枝は自分自身であると錯覚し、隣からの枝を支障なく自分の樹の中に受け入れてしまうのです。そして、やがて重なり合った枝は日照不足となり、徐々に枝枯れを起し、樹木が衰え始めます。

これを、私たちヒトと比べてみましょう。人は、親、兄弟でも異なる遺伝子を持ちます。しかしながら、幼い頃は自分と他者の区別がつかないため、人の物を勝手に借りたり、ベタベタと触れ合っ

たりします。まさにソメイヨシノ状態です。成長とともに自我の確立が始まると、自分と他者との違いを認識できるようになり、人と接するときには一定の距離を取る必要があることを覚えます。そして、自分を客観的に見つめることができるようになり、自分の長所や短所などが見え始めてきます。自分らしさとは何なのか、自分の生きがいは何なのかなど、人生の指針を見つける時期 — それが、まさに中学、高校と続く青年期なのです。

人はクローンではありませんから、一人一人の興味や関心は異なりますし、同じ言葉で傷つく人もいれば、つかない人もいます。すなわち、私たちはソメイヨシノとは異なり、多様性にあふれる存在なのです。そして、誰にとっても一番大切なのは「命」ですが、その次に大切なものとなると、スポーツだったり、音楽だったり、あるいは将来の夢の実現だったり、一人一人異なります。命の次に大切なものが違うわけですから、他の人が大切にしているものにも寛容でなければなりません。

しかしながら、2月のことになりますが、当時の東京五輪・パラリンピック組織委員会の森会長が「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる」と発言し、辞任に追い込まれたことは記憶に新しいでしょう。残念ながら、大人であっても、多様性の理解に乏しく、寛容さの足りない人がいるのも確かです。また、寛容性の不足が招く差別は身近なところにもあふれており、「みんなと同じ」という立場をとることで差別を助長してしまうこともあります。ぜひ皆さんには、高校3年間で自我を確立するとともに、多様性について深く理解し、尊重できる人になってほしいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様に一言ご挨拶申し上げます。本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。高校の3年間は、これからの人生の方向を決定する大切な時期ですが、青年期の只中にいて、悩み苦しむ時期でもあります。私たち教職員は、お子様が、自らが進むべき道を自分の力で切り拓いていけるよう、全力を尽くし支援して参りますので、どうぞよろしく願い申し上げます。そして、学校と家庭が相互に信頼し連携しながら、子どもたちの豊かな個性を伸ばしてあげましょう。

本日、高校生活のスタートラインに立った新入生が、たくさんの仲間と切磋琢磨しながら、自分で考え、判断し、行動できる人間に成長し、三年後、大きく羽ばたいていくことを期待し、式辞いたします。

令和3年4月8日

学校法人富澤学園 山形城北高等学校 校長 大沼 敏美